
昼休みを満喫しよう

春野夜風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昼休みを満喫しよう

【Nコード】

N9857D

【作者名】

春野夜風

【あらすじ】

昼休みの平凡な1コマを切り取ったお話。の予定だったので、私には無理があったようです。

昼休みというものは学生たちの至福の時。午前の授業という戦いを勝ち抜いた者の一時の休息。

しかし、彼らにとっては戦いの時間となる。

このお話はある学校のあるクラス。昼休み5分前から始まる。

「なあなあ、オマエは昼はどうすんだ？」

紹介しよう。彼は“西木徹「ニシキトオル」”。4限目を犠牲にして昼休みを戦う男の一人だ。ただ単にサボって寝ているだけとも言える。

「今日は学食に行こうと思ってる」

彼は“佐伯達「サイキトオル」”二人目のトオル。西木徹とは違い、真面目に授業を受け、学問を戦いとする者だ。ちなみに徹とは席が隣で友人だ。

「じゃあ一緒に行こうぜ。オマエがいると心強いんだが」

「学食のデッドヒートは面倒なんだよなあ……」

そう。昼休みの戦いとは昼食にありつつこうとする全校生徒との学食争奪戦だ。

「じゃあジュース奢るからさあ」

ジュース如きであの戦場に赴くとは思えん。

「よし、その任引き受けた！」

学生にとってジュースは大きかったようです。

「流石オレの親友！ 話が早いぜ」

「そうと決まれば気合を入れねばならんな」

口調が古風になっているが気にはしていない。

「チャイムが鳴る1秒前に行くぞ。準備しろよ」

「任せておけ。私にかかれば食堂のおばちゃんなど取るに足らん！」

無駄に心強い達くんでした。

「さあ行くぜ」

キンコーンカーンコーン

「行つて来るぜ担任！」

作戦通りに1秒前に席を立ち、担任に挨拶をしてから教室を飛び出す。

「おう。がんばれよ」

物分りのいい先生でよかったね。

「おい、西木。先客がかなりいるぞ」

学食の様子が窓からふと目に入る。

「やっぱり教室が近いクラスは早いな」

彼らのクラスは3階の一番右端。食堂は1階の左端。そこそこの遠いのである。

「しかし、私にとってあの程度の軍勢などいないに等しい！ 彼らより恐るべきは学食のマスターだ」

達が最も警戒する男。それは学食の管理人ことマスターだ。

「確かに。マスターに勝たねえと飯にはありつけねえ」

マスターがどんなものは後に自ずと知ることになるだろう。

「で、達は何買うか決まってるか？」

この戦に勝利するには作戦とスピードが要求される。前もって買うものを決めておかないと直ぐに売り切れてしまう。

「無論だ。狙うは難攻不落の砦！ ヤキソバパンのみ！」

ヤキソバパンが食べたいわけではない。マスターに完全勝利したいのだ。

「やっぱりそうきたか。俺はカレーパン狙いだ」

カレーパンはヤキソバパンに続き、2番人気のパンだ。

「なるほど、西木もなかなかの勝負師だな」

徹はカレーパンが食べただけだ。

「さあここからが本番だ」

彼らは食堂にたどり着く。そして中に足を踏み入れる。

「よっしゃ！　いくぜ！」

彼らは前の生徒達をバツバツとなぎ倒し、カウンターに到達する。

「おばちゃん！　カレーパンあるー？」

カウンターの前に行き、喧騒に負けないように大きい声で言う。

「マスター。ヤキソバパンはまだあるか？」

学食内の時間が止まる。誰もがおばちゃんに注文する中で一人だけマスターに注文する。これがどれほど勇敢な行為かは学食慣れしていれば誰もが知っている。この学校の学食特別裏メニュー。それはマスターと勝負して勝利すれば好きなメニューを半額で食べられる。しかし、勝負の内容はマスターの気分で変わり、負ければ倍の値段で指定したものを買わなければならない。挑戦した者は数知れず、勝利したものは一人もない。

「着やがったなあ。佐伯」

奥から40代後半と思われる男性が姿を現す。

「おう。マスター久しぶり」

達とマスターの回りにただならぬオーラが漂い、そんな光景を学食にいる全員が見ている。

「ヤキソバパンが欲しければ俺に勝ってからにしな！」

マスターは不敵に笑う。

「上等だよマスター」

マスターが色んなパンが入ったトレイを持ってくる。

「ルールは簡単だ。このトレイの中のヤキソバパンを見つけてゲットすればお前の勝ちだ。制限時間は1分。1分以内に俺から獲物を奪えなければオマエの負けだ」

達はかつてマスターに挑み、あと少しというところで敗れたのだ。勝負内容は憎いことに今回と同じ。

「西木、タイム任せた」

達はいち早く獲物を捕らえる。

「よし、任せろ」

「今度こそ勝つ！」

「よーい…」

・・・

「はじめ！」

徹の合図で二人の戦いが始まる。

「貰ったあ！」

達は早速ヤキシバパンに手をのばした。

「甘いぞ佐伯」

しかし、達が手にしていたのはカレーパン。

「何！ そんなバカな！」

「そう簡単にはいかんさ」

「やっぱり一筋縄ではいかないか…」

握らされたカレーパンを徹に投げつける。

「何で俺に投げるんだよ！」

「気分だ！」

気分でパンを投げつけられる徹っていったい…。

「まだまだいくぞ!」

小癪にもマスターは先ほど達にカレーパンを掴ませたと同時に自分の近くにヤキソバパンを配置していた。しかし、達は目にも留まらぬ速度で獲物に手をのばす。

「早いな。しかしまだまだだ」

今度はコッペパンを握らされていた。

「なめやがって…」

手に持ったコッペパンを握り潰して徹に投げつける。

「だから何で俺に投げるんだよ!」

「気分だ!」

徹と話ながらも達の手は止まらない。ヤキソバパンを奪い合う。目にも留まらぬスピードで打ちつけあう拳。あまりの速さにパンが空中に浮いてるようにしか見えない。

「うおおおおお!!!!」

二人とも叫んでいるが、飯時くらい静かにしてくれという人もいるので止めておけ。

「なんて速さだ…」

「どっちが勝つんだ…」

「マスターが勝つほうに100円！」

「俺は佐伯が勝つ方に100円だ！」

野次馬が固唾を吞んで見守っている中、何人かの生徒が口々に色々な事を言っている。が、まずはあのマンガのような手の動きに誰かツッコめよ。ちなみにマンガのような手の動きとは、例えるとレレのおじさんの脚とか本官さんが銃をブツ放してるときの脚を思い浮かべてくれると想像がつくと思われる。何で手の話をしてるのに脚で例えるんだとかいうツッコミは全力でスルーします。

「佐伯よお、あと10秒だぜ」

再び言うが、手は休むことなく動いている。

「おい達！ そんなハゲに2回も負ける気か！」

徹の声が食堂内に響く。

「俺はハゲてねえ！！！！！」

マスターは全力で帽子を取って否定した。しかし、それが当然痛恨のミスになる。

「スキあり！！！」

「しまったぁ！」

マスターのスキを見逃さず、ヤキソバパンを奪い取る。

「そこまで！」

達がパンを奪取した瞬間、終了の合図。

「ふっふっふ、マスター私の勝ちのようだな」

「てめえ…卑怯じゃねえか！」

「別に私が言っただけではないじゃないか」

達はどこから出したのか、扇子で扇ぎながら椅子にどかっとな腰掛けてる。

「それに、戦いに私情を持ち込んでいいじゃないな。なあ西木？」

「確かにマスター…デコからちょっとずつキテるなあ…」

徹は達の隣に座ってヤキソバパンをモリモリ食べていた。

「おい、西木。それは私のパンじゃないのか？」

「ほうはへどはひは？（そうだけど何か？）」

「何かじゃないだろ。オマエいつの間に」

「さっき達が椅子に座ったときだ。良いところ取りとはまさにこのこ

と。まあ勝ったのは俺のお陰みたいなもんだし。カレーパン美味かったし」

確かに勝ったのは西木のお陰みたいなのだが、カレーパンが美味しいのは全く関係ない。

「マスター、さっきのはやっぱり勝負師としての名折れだ。私の負けでいい。金はコイツから受け取ってくれ」

そう言い残し、達は学食を後にした。

「ということだそうだ。西木」

「マスター…負けたのはアイツだぜ…？」

マスターの威圧感に徹の顔は少々引きつっていた。

「食ってるのはオマエだよな？　そして誰がハゲだって？」

「ははっ…はははは……」

・・・

「さいなら！」

食堂からダッシュで逃げる徹。しかし、昼休み中にマスターに捕まり、結局倍の料金を支払ったそうなの。

おしまい

(後書き)

お金はちゃんと払いましょう。

評価・感想いただけたら感謝の極みです。

m — — m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9857d/>

昼休みを満喫しよう

2010年10月28日01時51分発行